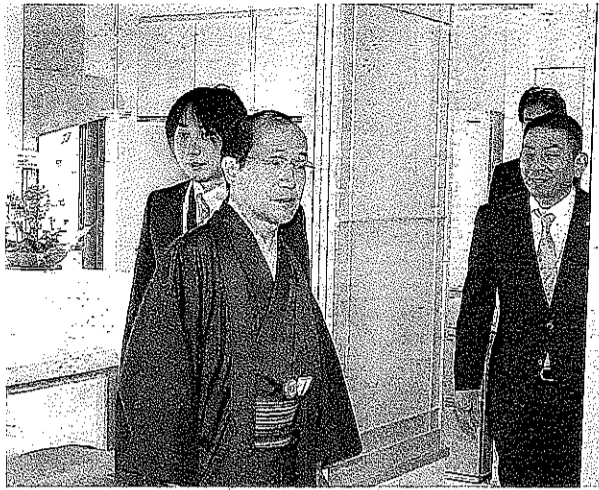


モデル住宅展示場がオープン 「平成の京町家」普及促進へ 地元企業の4社が出展

京都市ほか

新たな環境配慮住宅として京都市が普及を目指す京町家モデル住宅展示場「KYOMO」



モデル住宅を見学する門川市長

展示場では、一般的な工法に京町家の知恵を取り入れた「一般型モデル住宅」4棟を出展各社が建設。平成の京町家普及を共催する。

(きょうも)が3日オープンした。(株)ゼロ・コーポレーション、(株)リヴ、(株)ステージホーム、(株)シーズンの地元企業4社が出展。門川大作市長も見学に訪れるとともに多くの見学者で賑わった。

平成の京町家は、地球温暖化防止の取り組みの一環として、京都市が新たに開発したもので、従来の伝統的な京町家を継承しながら、現代の省エネ技術が融合した京都のエコ住宅として普及を目指している。

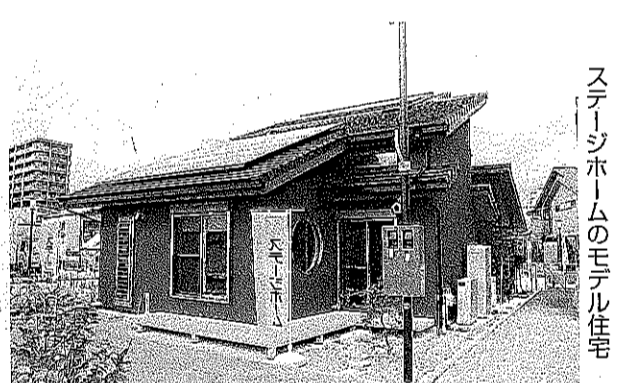
モデル住宅展示場の場所は、下京区河原町通塩小路の交差点北西。普及を図るために、建設事業者や関係団体、学識経験者、京都市、京都市住宅供給公社で結成した平成の京町家コンソーシアムらで共催する。



ゼロ・コーポレーションのモデル住宅



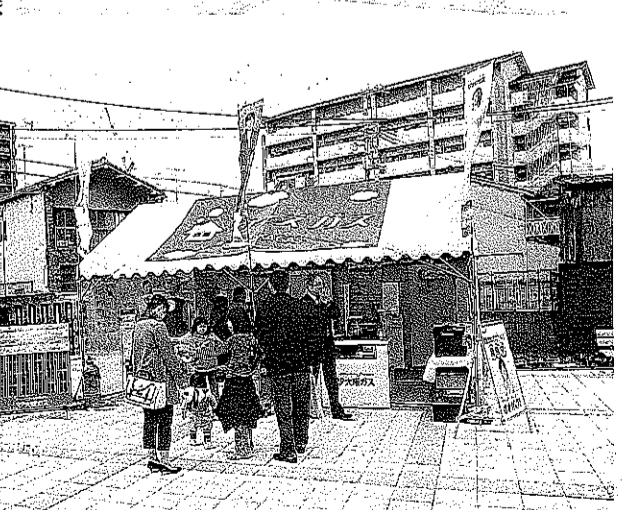
リヴのモデル住宅



ステージホームのモデル住宅



シーズンのモデル住宅



大阪ガスによる最新調理機を使った調理実演も行われた

センターと兼用する京町家の意匠や構造(伝統構法)を踏襲した「伝統型モデル住宅」1棟の建設が進んでいる。

一般型モデル住宅では、断熱性や省エネルギー設備など現代技術を採用する

るとともに、家の中に風の通り道をつくる間取りや中庭など京町家の特徴を継承。このほか出展各社では、京都府内産をはじめとした木材を多用し、環境への配慮に努めた。

(株)ゼロ・コーポレーション(北区)では、都心部の市街地を想定した「市街地型」のモデル住宅を建設。規模は、W造(在来工法)2階建、延147.89㎡(建築面積108.04㎡)。2階床に市内産の無垢材(檜)を使った

ほか、エコウィルやLED照明など省エネ設備を採用した。

(株)リヴ(西京区)では、都心部の市街地を想定した「市街地型」のモデル住宅を建設。規模は、W造(在来工法)2階建、

延171.82㎡(建築面積98.12㎡)。大断面木構造を採用し、高強度・高耐久性を実現。天窓や深い軒の出、庇などで光や熱を調整する。

(株)ステージホーム(山科区)のモデル住宅は、

W造(在来工法)2階建、延116.65㎡(建築面積92.55㎡)。構造材は京都初の府内産集成材を使用。次世代ソーラーシステム「そよ風」や床暖房効果のある全館冷暖房システム「CCF・ST

YLE」を採用した。

(株)シーズン(中京区)は、建設途中だった彩工房b(株)DACの物件を引き継いだ。郊外の住宅地を想定した「郊外型」のモデル住宅になるもので規模は、W造(在来工法)2階建、延135.12㎡(建築面積102.54㎡)。1月頃の開所を予定している。

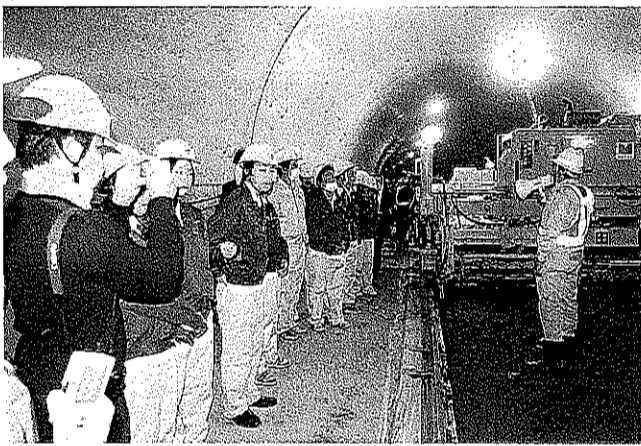
伝統型モデル住宅は、「平成の京町家」普及センターを兼ねて建設される。規模は、伝統的木造軸組構法2階建、延126.78㎡(建築面積76.96㎡)。建設にあたっては、京都建築専門学校が協力し、学生の實習にも活用されており、3月頃の完成を予定。今月11日には土壁づくり体験イベントも開かれる。

この日は、オープンに合わせて住宅展示場の協賛企業である大阪ガスにより、床暖房、エネファームと太陽光発電の組合せなどの最新エコ設備の体験、最新調理機による調理実演なども行われた。

栗尾トンネルで作業を学ぶ 伏見工業生徒が現場見学

—京都府建設業協会—

社団法人京都府建設業協会(岡野益巳会長)は2日、伏見工業高等学校の生徒を対象とした建設現場見学会を開



舗装工事の様子を見学する生徒

いた。京都市が右京区京北地域で整備している国道162号栗尾バイパス・1号トンネルの現場で舗装工事等の模様を見学した。

見学会は、就業者の高齢化が課題になっている建設産業界において、若年層の入職者を確保・育成するため、京都府建設業協会の労



高木労務委員長

務委員会(高木英二委員長)が開催している。この日は、同校システム工学科・都市情報システムコースの2年生、34人が参加。バスで現地に到着後、現場事務所です業概要と工事内容の説明を受けた。

高木委員長の挨拶に続き、事業概要の説明を京都府建設局事業推進室・重要路線担当の安田直弘氏と服部泰典氏が担当。舗装工事の説明を公成・日新JVの大八木志現場代理人が担当した。右



建設局の安田氏



大八木現場代理人

「教室で学ぶよりも、現場で実際の作業を見る方が解りやすいと感じたし、何よりも楽しかった」と語り、作業関係者に謝辞を述べた。

京区京北細野町から同周山町までの約4300mが対象。新たに峠を抜けるトンネルを築造して、バイパスとして整備し、安全な交通確保を目指している。

トンネル規模は、京都市が管理するトンネルで最長の2313m。幅員は歩道9.5m、NATM工法で鹿島・鉄建・岡野・公成JVが施工し、今年1月に貫通。現在は、舗装工事や各種設備工事が行われており、25年度中の完成を予定している。

公成・日新JVが担当するのは、トンネル内の舗装と排水工事。概要は、コンクリート舗装工(延長2323m、面積1万5440㎡)、排水構造物工(円形水路φ200mm、延長4534m)、縁石・歩車道境界ブロック(延長4626m)、歩道・監査歩廊路床工(27

10㎡、集水枘(φ200mm用、92方所)。11月1日現在、コンクリート舗装工は延長1188mまで進捗している。工事は1日当たり150mのペースで進められており、12月28日の工期を目標としている。

トンネル内を歩いて舗装工事の最先端部へ移動した生徒らは、大型機械を使って行われているコンクリートの敷均しから締め固め整形、平坦仕上げ、表面仕上げなど、一連の作業を学んだ。

見学後の生徒からは「教室で学ぶよりも、現場で実際の作業を見る方が解りやすいと感じたし、何よりも楽しかった」と語り、作業関係者に謝辞を述べた。